

中国語の形容詞に対応する日本語表現の特徴

孫 琦

【キーワード】 連用修飾語 状語 形容詞 副詞 翻訳

1. はじめに

中国語の形容詞が連用修飾で用いられる場合、日本語ではどのような表現で対応しているのかを考察する。中国語の形容詞が持つ特徴、及び日本語の形容詞を含む広い範囲での形容表現の特徴を明らかにすることが目的である。形容詞のある共通する文法機能を前提に対照することによって、中国語と日本語の形容詞の本質的な違いを探ることができると考える。形容詞が述語を修飾する場合、副詞的用法と呼ばれるように、副詞と似た機能をもっている。本研究は形容詞という品詞の枠にとらわれず、副詞とのかかわりをも視野に入れ、日本語の翻訳文から見られるさまざまな形容表現と中国語の形容詞の関係を明らかにしたい。

2. 中国語の「状語」と日本語の「連用修飾語」

中国語の形容詞の主な文法機能について簡単に述べておきたい。日本語の形容詞は述語、連体修飾語、連用修飾語になるという三つの主な用法があるのに対し、中国語の形容詞は一般的に「謂語」(述語)、「定語」(連体修飾語)、「状語」(連用修飾語)、「補語」(賓語)(目的語)、主語になる。「状語」とは、文中で述語を修飾する成分である。日本語の連用修飾語に相当する。中国語の形容詞と日本語の形容詞は、ともに連用修飾語として、次のような共通する構文的機能が備わっている。

日本語： 連用修飾語(形容詞) + 述語

中国語： 状語(形容詞) + 中心語

中国語の形容詞が状語になる場合、一部はそのまま、一部は“地”とともに状語になる*1。形容詞が状語、つまり述語である中心語を修飾する連用修飾語となるときの特徴について、相原茂1988では、次のようにまとめられている。

- ・一音節形容詞のほとんどは単独では自由に状語になれない。
- ・一音節形容詞は、重ね型にすればかなり自由に状語になることができる。
- ・一般二音節形容詞は口語においてはそのまま単独に状語になることは少なく、重ね型になることが多い。(規矩/規規矩矩)

- ・接辞を伴う形容詞（紅通通）と複合形容詞（雪白）が状語になるとき、ふつう後に“地”を必要とする。

以上、中国語の形容詞の連用修飾機能について概観したが、言語が違えば、それぞれの形容詞が持つ意味用法が異なるのはいうまでもないが、中日形容詞に共通する修飾機能を確認し、ある共通の機能を前提とした対照研究が可能であると考える。それによって、中国語と日本語における形容詞の本質的な特徴を見出すことが可能となる。

3. 用例資料について

3. 1 原作とその翻訳作品

文学作品を中心に用例を集めた。中国語の原作とそれを日本語に翻訳された作品6種を対象にした。そのうち、一つの作品に対して異なる翻訳本がある場合、それぞれを用例採取の対象とした。詳しくは本稿末尾の用例出典を参照されたい。

中国語の形容詞は形の上から認定するのが難しく、今回はその判定を《形容词用法词典》《实用汉语形容词词典》『講談社中日辞典』などの辞典類によった。いずれかの辞書で、形容詞として見出し語が立ててあれば、それを採取し考察の対象とした。なお、「轻轻，慢慢，深深，苦苦」などの形容詞重ね型については、副詞とする見方あるいは別の品詞類を立てる見方などまだ議論の多いものであるが、本研究では形容詞とみなす。

3. 2 考察対象となる形容詞の数と種類

以上の手続きに従って抽出された中国語形容詞は、166語である。それを含む中国語文及び日本語訳文の用例数は、各約300と500である。

中国語文用例数 : 300例

日本語訳文用例数 : 500例

形容詞の異なり語数 : 166語

形容詞の分類：（ ）内は異なり語数

- A 一音節形容詞 例：快，猛（4語）
- B 一音節形容詞重ね型 例：緊緊，重重（35語）
- C 二音節形容詞 例：詳細，正确（91語）
- D 二音節形容詞重ね型 例：端端正正，零零散散（21語）
- E 後置成分をおく形容詞 例：慢腾腾，孤单单（15語）

4. 形容詞の中日翻訳のパターン及びその要因

中国語の形容詞による連用修飾の日本語訳の方法は、次の4.1~4.5に述べるような五つのパターンに整理することができる。なお、ここでいうパターンはあくまでも今回観察されたものである。一つの原文と訳文の間の訳し方は、一通りとは限らない。翻訳ものを用いたことに限界はあるが、しかし、いくつかの異なる翻訳本を参考にし、自分の内省をも合わせ、訳し方の大まかな傾向が見られた。以下、それぞれの訳し方のパターンについて用例を挙げながら見ていく。

4. 1 形容詞・形容動詞による連用修飾となっているもの（例文の出典は略語で示した。訳文はすべて翻訳本の訳に従う）。

- [1] 向炊事员嘀嘀咕咕地交待给我们按多少定量打饭的时候，我的近视眼迅速地在伙房里踱了一遍。(緑)
我々への割り当てを炊事員にくどくど説明している間に、私は素早く炊事場のなかを見回した。
- [2] 他的两张大脚片子踩在白花花的大路上，轻轻松松地走着。(小)
拾来の大きな足がほの白い街道を踏みしめて、軽やかに進んだ。

中国語の形容詞と日本語の形容詞・形容動詞がほぼ意味的に対応する場合、そのまま日本語の形容詞・形容動詞に置き換えて連用修飾の構文をとる。特に、「正式-正式に/詳細-詳細に/熱心-熱心に/秘密-秘密裏に/自由-自由に…」のように中国語の形容詞が日本語の漢語形容動詞と対応するものが見られた。

4. 2 副詞による連用修飾となっているもの。

- [3] 从桥头那几个老汉对他的称呼，我们知道了他绝不是干部，不是书记，队长，出纳，会计之类的人物，从而大大地削弱了我们对他的敬意。(緑)
橋のもとにいた老いぼれたたちの呼びかけから、彼が、書記、隊長、出納係、会計係といった幹部ではないことがわかった。彼に対する我々の敬意は大いにそがれた。
- [4] 这么想好，他轻轻的摇了摇那个扑满，想像着再加进三十多块去应当响得多么沉重好听。(駱)
彼はそっと貯金玉を振ってみて、三十何円かを入れたときのずっしりとした重さと美しい音色を頭に思いえがいてみた。(駱①)

日本語訳の副詞による連用修飾のなかには、いわゆるオノマトベといわれる副詞類による連用修飾の用例が数多く見られ、特徴的であるといえる。この点については5.で詳しく分析することにする。

4. 3 動詞句による連用修飾となっているもの。

- [5] 他想在自己的破屋里忽然寻到一注钱，慌张的四顾，但屋内是空虚而且了然。(阿)
彼は自分のぼろ家の中で不意に金を探し出すことを考え、あわててあたりを見わたしたが、(阿①)

ある状態的な意味を表すのに、中国語では形容詞であるが、一方日本語では形容詞が存在せず、状態動詞となる場合がある。この場合、動詞が「～して」「～するように」の連用形をとり、動きや行為の様態を修飾する役割を担う。次のような動詞が見られた。

喜ぶ／急ぐ／慌てる／興奮する／謹む／いばる／恥じ入る／いぶかる／
せきこむ／うちひしぐ／くちごもる／落ち着く…

4. 4 その他の句形式に置き換えられるもの

以上に挙げた三種類の翻訳パターン以外に、例えば[6][7]のように、説明的な語句を用いて、まったく異なる表現形式をとっているものもある。もっとも意識的な訳し方であるといえる。複文にするものや、名詞句にするものや、動詞句にするものが観察された。例[6]は、「暗い顔で相手を見つめる」というように、名詞句が用いられている。なお、「暗い顔して」のように動詞句を用いて訳すことも可能である。例[7]は、中国語の「窝窝囊囊的混过去」という連用修飾句に対して、慣用的な語句を用いて意識している。

- [6] 拾来阴沉沉沉地看着他，然后一声不响地走了。(小)
拾来は暗い顔で相手を見つめ、口もきかずに行ってしまう。
[7] 拉车是他理想的职业，搁下这个就等于放弃了希望。他觉得他的一生就得窝窝囊囊的混过去了。(駱)
車引きは彼の理想の職業であった。これをすてることは、生き甲斐をすてるようなものだった。おれの一生はこんなぐあいにうだつのあがらぬままにおわってしまうんだな。

4. 5 対応する訳が存在しないもの

- [8] “啐！啐！”海喜喜响亮地朝两手啐了两口吐沫，“你闪开，看我的！”(編)
「ペッ、ペッ」海喜喜は両手に唾をつけて、「どいてな。みてる」

ごく少数ではあるが、日本語訳文では中国語文で用いられた形容詞がまったく訳されていないものがある。つまり形容詞の意味がまったく訳文の中で反映されていない。訳者が訳し忘れたことはあまり考えられないので、日本語ではふつうそのように表現しない、あるいは入る余地がないためか。わざわざ訳すと文章が

くどくなるような場合もある。例[8]の場合、「响亮」は「音が高らかに、音を立てて」という意味であるが、日本語の擬声語である「ベッ、ベッ」はそれ自体が勢いのある音そのものを表していて、わざわざ修飾語を入れないほうが自然かもしれない。

以上、中国語の形容詞が状語として述語を修飾する際の日本語翻訳文を整理した結果、次の五つのパターンにまとめることができる。

中国語の形容詞による連用修飾が日本語に訳される際：

- ① 形容詞・形容動詞による連用修飾になる
- ② 副詞による連用修飾になる
- ③ 動詞句による連用修飾になる
- ④ その他の句形式に置き換えられる
- ⑤ 対応する訳が存在しない

この五つの翻訳のパターンがそれぞれの作品の中でどのような割合を示しているかを表1にまとめた。これはあくまでもある特定の訳者の翻訳文を用いた結果であり、訳し方は人によって異なる場合も十分考えられる。しかし大まかな中国語の日本語訳の傾向性を示すには意味があると思われる。

表1 <訳文用例総数：500例> (オ)…オノマトベの略称

作品名	翻訳パターン	形容詞	形容動詞	副詞(オ)	動詞句	その他	無訳
『緑化樹』		18	20	20(15)	11	21	9
『小鮑荘』		8	9	28(22)	3	17	2
『傾城の恋』		7	3	10(6)	2	4	1
『漢日翻訳教程』		9	5	4(3)	2	7	0
『阿Q正伝』	①	7	4	17(15)	5	7	0
	②	3	9	16(14)	4	8	0
	③	3	6	18(14)	4	9	0
	④	2	7	16(14)	5	10	0
『駱駝祥子』	①	3	1	16(14)	2	13	5
	②	2	12	19(12)	1	4	2
	③	2	6	13(7)	1	13	5
合計		64(13%)	82(16%)	177(136)	40(8%)	113	24(5%)
			146(29%)	35%(27%)		(23%)	

5. 中国語形容詞に対応する日本語表現の特徴

5. 1 中日両語の形容詞と副詞の対応

形容詞が述語を修飾する際は、属性的意味が抽象化され、動きの程度や様子について表現することができる。たとえば、「軽く押す」「轻轻地按」の場合の「軽い」「轻轻」はともに「ものの重さ」というものの属性的意味から、「力の強さが

弱い」という意味に転じる。形容詞の連用修飾用法は副詞的用法とも呼ばれるように、副詞と似た機能をもっている。この点において中国語と日本語の形容詞は共通している。このような中国語と日本語における形容詞と副詞の対応関係を見るために、中国語から日本語に翻訳される場合と合わせて、日本語から中国語に翻訳される場合についても考察する必要がある。表1に示したように、中国語の形容詞による連用修飾の日本語訳の内、程度副詞や様態副詞が用いられた例文は約3割強にものぼる。これに対し、日本語から中国語に翻訳される場合はどうであろうか。

日本語から中国語への翻訳資料を用いて、その訳し方を分類した結果、やはり形容詞と副詞の対応が見られた。しかし、用例の数は中国語から日本語への翻訳の場合と比べてかなり少ない。全140例の内、例[9][10]のように、中国語では副詞を用いて訳される用例は12例にとどまった。

[9] だらしない口もとも、いつものように、薄くあいていた。(金)
她那带轻化的嘴角像平时一样微微地张开,

[10] どちらかが長く黙っているとそちらにしゃべりかけて相手の話を上手くひきだした。(森)
要是有任何一方始终保持沉默，他便会转去和他说话，说些和对方有关的话题。

例[9]の中国語訳では、「口があいている」程度を副詞の「微微」(微かに)を用いて表現している。中国語の形容詞「薄」は、「ものの厚さ」という属性的意味から、日本語の「薄く」のように意味の抽象化が難しいため、「口があいている」程度を表すには副詞の「微微」を用いざるを得ない。例[10]の「長く黙っている」の中国語訳は、時間の長さを表す形容詞「长」を用いるのは難しく、「始终」(しじゅう)「一直」(ずっと)のような副詞、あるいは「很长时间」(長い時間)のような名詞句によって表す。

日本語から中国語に翻訳される場合の約6割以上を占めているのは、やはり中国語の形容詞による翻訳である^{*2}。一方、対照的に中国語から日本語に翻訳される場合、オノマトペを含む副詞の用いられる例が目立った。次は、日中翻訳では見られなかった形容詞連用修飾作用の特徴について詳しく見てみたい。

5. 2 中国語の形容詞連用修飾文に対応する日本語表現の特徴

5. 2. 1 日本語のオノマトペ

表1で示したように、中国語の形容詞による連用修飾の日本語訳のうち、形容詞が用いられたのは13%にすぎなく、形容動詞とあわせると29%になる。一方、オノマトペ表現による連用修飾に訳された用例が約27%にのぼる。一般的に、日本語の形容詞を形容動詞で補っているといわれているが、動詞を修飾する用法に

限って言えば、日本語の様態副詞であるオノマトベもなくてはならない修飾語の一つであるといえる。以下の用例はすべてオノマトベによって訳されたものである。「緊緊」は「きつく」、「緊張」は「緊張しているさま」、「懶洋洋」は「元気がないさま」、「重重」は「重い」の意味をそれぞれ表している。

- [11] 听见了这话，把手里的绣花鞋帮子緊緊按在心口上。(傾)
このことばを耳にすると、思わず手にした刺繡しかけの靴布をぎゅっ
と胸に押し当てた。
- [12] 那几匹瘦马就要紧张地抖动抖动耳朵。(緑)
その度に瘦せ馬たちはビクッと耳を立てた。
- [13] 阿Q虽然答应着，却懶洋洋的出去了，也不知道他是否放在心上。(阿)
阿Qは承知しながらも、のらりくらりと歩いて出て行ったので、彼が
氣にとめているかどうか分からなかった。(阿②)
- [14] 这个电话扫了她的兴，她重重地倒在弹簧床上。(翻)
いやんになっちゃう。彼女はどーんとベッドにひっくりかえった。

ある動きや行為が行われるときの様子や、主体あるいは対象の状態を表現するには、中国語では形容詞で表しているのに対し、日本語では形容詞ではなく、様態副詞の一種である擬態語^{*3}が用いられている。日本語の擬態語の種類について、金田一春彦 1978 では次のように述べている。

名前をつけるならば、無生物の状態を表すもののほうは、正統の「擬態語」で、生物の状態を表すものは擬容語とも言うべきものだ。そうして、擬態語の中には、さらに進んで、人間の心の状態を表すようなものもある。…これは擬情語とも言うべきものである。(p.8)

さらに金田一 1978 では、次のような記述がある。

堂々と行動する

てきぱきとやっつてのける

この二つで機能のちがいはない。「堂々と」のほうは「堂々たる」という形があるかもしれないが、「堂々」と類似の言葉で、「悠々」などには、「たる」の形がない。が、それも、連用形だけをもった語と見られる。とすれば、この「てきぱき」も、連用形だけをもった形容動詞、したがって一種の形容詞と見る方がよいと思う。(p.21)

このような考えに基づけば、述語を修飾する機能においては、日本語の擬態語も形容詞に近い働きをしているとみることができる。中国語の形容詞を日本語に翻訳するとき、日本語に対応する形容詞がない場合、例[11]～[14]のように擬態語を用いることがしばしば見られる。

5. 2. 2 中国語形容詞の描写性について

3.2でEに分類された中国語の形容詞は、擬態的要素を帯びているものとして考えられる。例[15][16]のような、後置成分をおく形容詞については、後置成分が「実詞」で表す様態をより具体的に補足説明する役割を果たし、繰り返すことによって意味を強調し、かつオノマトペ的な語感を出すという機能をもつ。中国語のこのようなABB型のある状態を感覚的に表現する語は、いずれも冒頭の一文字はもともと形容詞であるから、やはり日本語の擬態語とはことなり、概念化されているといえる。

また、一音節形容詞と二音節形容詞は同音の反復によって、客観的屬性をあらわす形容詞に主観的象徴的意味をもたせ、自由に述語の動詞を修飾することができる。中国語の形容詞が本来持っているこのような描写機能は日本語の形容詞にはない。この点においては、中日の形容詞に大きな違いが見られる。

[15] 她慢腾腾的摘下了发网，把头发一搅，(傾)

流蘇がのろのろとヘアネットをはずし、髪に指を入れてかき乱すと、

[16] 他唯一的孙子直挺挺地躺着，一张脸蜡黄。上年就得了干癆，一个劲儿地吐血，硬是把血呕干死的。(小)

ひとりっきりの孫が背をぴんと伸ばして横たわっていた。顔は蠟のようだった。去年肺病を患ってから、ずっと血を吐き続け、とうとう血を吐きつくして死んだのだ。

5. 2. 3 日本語で形容詞による連用修飾が訳されにくい要因

中国語では形容詞による連用修飾の文が日本語に訳すと、さまざまな表現になるということについて、どのような要因が考えられるかを三つの側面から分析を試みる。実際、非言語的な要因も無視できないが、今回は中日形容詞の対照を通じて、両言語における形容詞の特徴をよりいっそう明らかにすることが目的であるため、言語内で考えられることのみについて検討する。

まず、第一の要因としては、中国語と日本語の語彙構造の違いによるものが挙げられる。ある様子あるいは状態を表すのに、中国語には形容詞が存在するが、その意味と対応することばは日本語では形容詞ではなく、他の品詞になっている場合がしばしばある。語彙体系が異なることによる自然な結果であると考えられる。たとえば、日本語形容詞の対義語の一方が形容詞が欠けていて、他の品詞のことばと意味的に対応している場合がある。「汚い—きれいな」「激しい—穏やかな」「若い—老いた」「正しい—間違った」などがその例である。中国語ではこれらの対義語ペアはすべて形容詞で表している。

次に、日本語の形容詞が受ける構文的制限が多いことが、形容詞が連用修飾で

は用いられにくいことに直接関係している。人間の態度や感情を表す日本語の感情形容詞が人称制限を受けることはよく言われている。これに対して、中国語の形容詞にはこういう人称制限はほとんどない。

[17] 阿Q以如是等等妙法克服怨敌之后,便愉快的跑到酒店里喝几碗酒,(阿)
阿Qはこのようなさまざまな妙計によって怨敵を克服した後, 楽しそうに居酒屋へ駆け込んでいって何杯か酒のみ,(阿①)

?楽しく居酒屋へ駆け込む

[18] 这下轮到文化子不说话了。

“你不要我回来?” 小翠艾怨地问。

文化子のほうが黙ってしまった。

「戻ってほしくないの」小翠子が恨めしげに尋ねた。

?恨めしく尋ねる

中国語では、第一人称も第三人称も自由に形容詞を用いて、その人物の心の状態を表現することができる。それに対し、日本語に翻訳される際に、感情形容詞の人称制限により、三人称の場合、たとえば[17][18]のような「感情形容詞+そうに/げに」の形容動詞連用形による様態修飾は見られるが、第一人称となると、「嬉しく/はずかしく/にくにくしく…」と、形容詞の連用修飾そのままの形で表現しにくい*4。(？が付いた文は不自然な文である。)

どのような形容詞が訳文の中に用いられているのかを確かめる必要もある。日本語訳文用例のうち、主に次のような事物の状態・性質や評価を表す日本語の属性形容詞・形容動詞が目立つ。

堅く	早く	遠く	低く	軽く	強く
正しく	詳しく	深く	固く	小さく	こまかく
はげしく	手早く	素早く	ぎこちなく	滞りなく	間違いなく
静かに	きれいに	かすかに	軽やかに	穏やかに	ひそかに
正式に	適切に	確実に	自由に	器用に	不器用に
公平に	厳格に	詳細に	正確に	機械的に	均等に

一方、「冷たく」「やさしく」「重々しく」「ものさびしく」「執拗に」「丁寧に」のような人間の態度や心情を表す形容詞と形容動詞もいくつか見られた。

第三の要因としては、連用修飾作用において、日本語の中では形容詞の数が限られているため、オノマトペが形容詞的な役割を果たしているという特徴が挙げられる。主体が動作を行うときの心理描写に用いられる中国語の形容詞が日本語に訳される場合、日本語の形容詞には対応するものがなく、形容詞を用いることはむずかしいため、その代わりに金田一がいう「擬情語」が多用される。たとえば、以下の用例がある。

紧张地抖动	ビクッと耳を立てた(緑)
慌张地四顾	きょろきょろ見まわす(阿③)
惘惘地看	しょんぼりと左右を見た(阿④)
怯怯的迎着	おずおずと呼びかけた(阿④)
愤愤的躺下	ぷりぷりしながら横になった(阿①)
懒懒地走	のろのろと歩き(緑)
舒舒服服地躺了下来	ゆったりと横になった(緑)
悠闲地吸烟	ゆったりとタバコを吸いながら(緑)

上記のような中国語の形容詞と意味的に対応して、しかも動作の修飾に用いられる形容詞は日本語の中には確かに見つけにくい。同じような意味を表すには、日本語ではその他の言い回しを用いても表現できるが、原文と同じように連用修飾の構文をとるには、やはりオノマトペを用いたほうが訳としてもっとも適切ではないかと考える。たとえば、「慌张地四顾」は落ち着きがなく、慌てて周りを見まわす様子で、「懒懒地走」は見るからに元気がなく、ゆっくり歩いている様子で、「怯怯的迎着」は内心こわいと思いつながら迎えることを表現している。それぞれ「きょろきょろ」「のろのろ」「おずおず」を用いて動きの際の主体の様態修飾をすることが、表現として簡潔かつ適切である。

中国語の形容詞は日本語の形容詞に比べ、人間の心情や態度を表すものが豊富であるし、多用法的であるといえる。一方、金田一1978では、「日本語の擬態語には、人の種々の態度を表し分けるものが多い。キョロキョロ、ソワソワ、ボンヤリ、ムツツリ……」と指摘している。日本語の形容詞ではあまり言い表せないような人間の心理・態度について、擬態語が補っているといえるのではなかろうか。

以上、日本語から中国語へ翻訳される場合と比べ、なぜ中国語から日本語へ翻訳される際に、オノマトペの副詞類が多用されるのか、その理由についていくつかの側面から分析を試みた。

6. 結語

連用修飾機能という中国語と日本語の形容詞に共通して見られる文法機能に着目し、翻訳作品から採取した実例をもとに分析した結果、中国語の形容詞が動詞を修飾する場合の日本語訳の傾向性について、大きく五つのパターンに整理することができた。

動きや行為が行われる時の人間の種々の態度や感情を表すには、中国語では形容詞を用いて表現することができるのに対し、日本語ではそのまま形容詞を用いて対応できない場合は少なくない。その代わりに、オノマトペを含む副詞類による修飾が多く見られた。このことは中国語の形容詞に対する日本語表現の特徴とし

て挙げられる。

また、その要因についても分析を試みたが、今回の分析はあくまでも言語上から考えられる理由に過ぎず、バックグラウンドとしての文化面での問題をどのように配慮すればよいかは、今後の課題である。さらに、翻訳の場合は必ずしも一対一の訳とは限らないため、これからは訳文について再検討し、一対多の場合も視野に入れ、より厳密な考察を行いたいと考えている。

-
- ※1 そのままでは状語になれない語や句は、後に構造助詞“地”（“的”）を伴って状語になることがある。
 - ※2 中国語では形容詞を用いて訳されるものの中、形容詞が「状語」として用いられる場合と、「補語」として用いられる場合、そして形容詞の連体用法がみられる。
 - ※3 『国語学大辞典』1980 (p. 214) では、日本語の擬態語は以下のように定義されている。音響には無関係な事象の状態などを音で描写する語、「ピタリと命中する」「ヒョッコリあらわれる」におけるピタリ・ヒョッコリの如き語は擬態語・擬貌語・写容語・模様語なども称されるが、擬声語と擬態語との境界は時々截然としないため、総称的に擬声語・オノマトペ (onomatopoeia) ・象徴語等で済まされることも多い。
 - ※4 日本語感情形容詞の連用修飾用法の特徴及び中国語との対照については、拙稿 1999 を参照されたい。

【用例出典】（ ）内は原作の初刊の年である。

- (緑) 《绿化树》张贤亮《张贤亮小说自选集》漓江出版社 1995(1984)
『绿化树』张贤亮著 野沢俊敬訳 響文社 1989
- (傾) 《倾城之恋》张爱玲《张爱玲小说集》安徽文艺出版社 1995(1943)
『倾城之恋』张爱玲著 池上貞子訳 平凡社 1995
- (小) 《小鮑庄》王安忆《中国作家》1985年第2期(1985)
『小鮑莊』王安憶原作 佐伯慶子訳 徳間書店 1989
- (阿) 《阿Q正传》鲁迅《鲁迅全集》第一卷 人民文学出版社 1981(1921)
『阿Q正伝』鲁迅原作 ①駒田信二訳 講談社 1998
②竹内 好訳 岩波書店 1966
③増田 渉訳 平凡社 1960
④田中清一郎 / 中沢信三訳 ハト書房 1953
- (駱) 《骆驼祥子》老舍《老舍文集》第三卷 人民文学出版社 1982(1936)
『駱駝祥子』老舍作①立間祥介訳 岩波書店 1980
②飯塚 朗訳 平凡社 1960
③田中 伸訳 新潮社 1948
- (翻) 《汉日翻译教程》苏琦 商务印书馆 1994
- (金) 『金閣寺』三島由紀夫 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』新潮社 1995(1956)
《金閣寺》唐雪梅译 译林出版社 1998
- (雪) 『雪国』川端康成 CD-ROM版『新潮文庫の100冊』新潮社 1995(1947)
《雪国》叶渭渠 唐雪梅译 外国文学出版社 1998

- (森)『ノルウェーの森』村上春樹 講談社 1987
《挪威的森林》林少华译 漓江出版社 1999

【参考文献】

- 刘月华 潘文娣 顾初 1983 《实用现代汉语语法(上)》外语教学与研究出版社
(相原茂監訳 1988 『現代中国語文法総覧(上)』くろしお出版)
- 张国宪 2000 《现代汉语形容词的典型特征》《中国语文》总第 278 期
- 朱德熙 1956 《现代汉语形容词研究》《语言研究》第 1 期
- 角岡賢一 1993 「日本語の『擬似オノマトペ』-日本語と中国語の接点-」
『オノマトピア-擬音・擬態語の楽園-』勁草書房
- 金田一春彦 1978 「擬音語・擬態語概説」『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 国立国語研究所 1972 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 孫琦 1999 「連用修飾で用いられる感情表現の特徴-中国語との比較から-」
『ことば』20 現代日本語研究会
- 田守育啓/ローレンス・スコワラップ 1999 『オノマトペ-形態と意味-』くろしお出版
- 仁田義雄 1983 「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」『日本語学』2-10
- 望月八十吉 1974 『中国語と日本語』光生館
- ロザリンド・ソートン 1983 「形容詞連用形のいわゆる副詞的用法」『日本語学』2-10
- 《实用汉语形容词词典》安汝磐编著 中国标准出版社 1990
- 《形容词用法词典》郑怀德/孟庆海编 湖南出版社 1991
- 『国語学大辞典』国語学会編 東京堂出版 1980
- 『講談社中日辞典』長谷川良一ほか編 講談社 1998

【付記】

本稿は、2001年8月18日に北京外国語大学で開催された、「第四回国際漢日対比語言学検討会」で口頭発表した「汉语形容词作状语句和与其相对应的日语表达方式」の内容を修正・加筆を施したものである。